

当時の人々は

その当時、拳銃を使用した犯罪は全国的にまれなものだったそう
で、大事件として取り扱われました。
小西巡査は「勇敢な行動は警察官の亀鑑きかんであり、人心に及ぼす影響小ならず」として、巡査部長に昇任。内務省（第2次大戦前の中央官庁）から功労記章が授与されています。

また、映画製作を行う日本活動写真株式会社がいはし（当時）にもこの事件は取り上げられ、映画化。和歌



山県内各地で上映されました。

故小西巡査部長の殉職碑は、大正12（1923）年5月10日、二川地区の地元有志により建立。さらに、殉職から3年後の大正14（1925）年8月16日には、地方の有志、青年会などの寄付によって楠本地区にも建てられました。

語り継がれる思い

小西巡査部長の殉職は、和歌山県警察にとつて忘れることのできない、そして、職務質問や容疑者



小西巡査部長の殉職碑。楠本橋付近国道沿い（＝上写真）と二川区の城山神社参道（＝下写真）にある。

同行の際の教訓を残した事件でした。現在、湯浅警察署では、湯浅署管内に着任した新人警察署員に対し、署長自ら殉職碑まで案内し、この事件について語っています。小西巡査部長の写真は、湯浅警察署3階会議室に飾られています。

また、世話人12人・会員約50人からなる「故小西巡査部長 顕彰会」でも彼の勇気と行動を語り継ぎたいと活動をしています。
「誰かが語り伝えていかなければ、小西巡査部長の偉業も、先人の思いの詰まった石碑も、忘れ去

られてしまうのではないかという危機感を抱きました」と語るのは、世話人代表であり、顕彰会発起人の一人でもある坂口緑みどりさん。昨年末から定期的に、石碑の清掃と献花をしているそうで、小西巡査部長の命日である8月16日（木）には、慰霊碑への奉拝も予定されています。

坂口さんは小西巡査部長について、「当時は通信もままならない中、応援を待ってられない、村民の命が第一だ、と考えて行動したのだと思う」「私は、彼の魂が私たちのことを、今でも見守ってくれているのではないかと感じています。殉職碑の前を通る際には、思い出して欲しい」と語ってくれました。

私たちが語り継ぎ、時折思い出すことで、彼の心はこれからも生き続けるのではないのでしょうか。

—小西巡査部長

語り継がれる思い 完—